

Prevalence of human papillomavirus infection in the oropharynx and urine among sexually active men: a comparative study of infection by papillomavirus and other organisms, including *Neisseria gonorrhoeae*, *Chlamydia trachomatis*, *Mycoplasma* spp., and *Ureaplasma* spp

著者	中嶋 一史
著者別表示	Nakashima Kazufumi
journal or publication title	博士論文要旨Abstract
学位授与番号	13301甲第4173号
学位名	博士（医学）
学位授与年月日	2015-03-23
URL	http://hdl.handle.net/2297/43538

doi: 10.1186/1471-2334-14-43



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2472 号

氏名 中嶋 一史

論文審査担当者

主査 市村 宏

副査 藤原 浩

吉崎 智一



学位請求論文

題 名 Prevalence of human papillomavirus infection in the oropharynx and urine among sexually active men: a comparative study of infection by papillomavirus and other organisms, including *Neisseria gonorrhoeae*, *Chlamydia trachomatis*, *Mycoplasma* spp., and *Ureaplasma* spp

掲載雑誌名 BMC Infectious Diseases 第 14 巻 43 頁
平成 26 年 1 月掲載

近年、ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染が子宮頸癌以外の癌の発生にも関連し得ることが明らかになりつつあり、特に男性に多いとされる中咽頭癌と HPV 感染との関連性は注目されている。本研究では、咽頭うがい液を採取し咽頭 HPV 検出率について検討した。男性患者 213 例を対象とし、各患者から咽頭うがい液及び尿検体を採取、それらの沈査を液状細胞診用保存液に保存した。各検体から DNA 採取を行い、HPV-DNA の有無を PCR にて調査し、HPV 陽性例については HPV の型判定を行った。また、淋菌、クラミジア、マイコプラズマ (*M. genitalium*, *M. hominis*)、ウレアプラズマ (*Ureaplasma* spp) 属 DNA の有無を PCR 法にて検討し、口腔内と尿路における HPV 感染と他の病原体感染との比較検討を行った。

得られた結果は以下のように要約される。

- 1) β グロビン陽性率は咽頭うがい液で 100%、尿検体で 97.7%であった。HPV 陽性率は、うがい液で 18.8%、尿検体では 22.1%であった。淋菌は咽頭検体で 15.6%、尿検体で 9.1% ; クラミジアは咽頭検体で 4.2%、尿検体で 15.9% ; *M.genitalium*, *M.hominis*, *Ureaplasma* spp 感染率は咽頭で 5.2%、10.3%、16.0% ; 尿で 7.7%、6.3%、19.2%であった。
- 2) 咽頭 HPV 感染は、75.0%が単一 HPV 型感染例であり、HPV16 が 42.5%と最も多く、尿検体においても HPV16 が 41.3%と最多であった。咽頭・尿同時感染は 18 例に認められ、その内 44.4%の型が完全一致しており 88.9%の型が完全一致もしくは類似していた。
- 3) 咽頭 HPV 感染のリスクファクターについて多変量解析にて検討した結果、尿路 HPV 感染が咽頭 HPV 感染の独立した危険因子であった。

本研究は、男性における咽頭 HPV 感染は一般的に多く、尿路 HPV 感染が咽頭 HPV 感染のリスクファクターであること、また、咽頭 HPV 感染が咽頭癌発症のリスクの 1 つである可能性を示した労作と評価され、学位に値すると判断された。